

一般財団法人 生産開発科学研究所

平成28年度(第32回)新材料・新技術利用研究会 参加のご案内

新製品開発を成功させるためには、特に新材料や新技術の利用に関する適確な情報とその活用が重要であるとの認識に立脚し、当研究所において昭和60年に発足いたしました本研究会は、お蔭をもちまして本年度で32年目を迎えます。

本研究会は、最近注目を集めている各種新材料や新技術を取り上げ、これらについて研究されている学界の先生方から基礎的な解説と利用の可能性を、その新材料や新技術の開発、製造の現場に携わっておられる産業界の方々に具体的な解説と用途を紹介して頂くことを目的として実施いたします。広い分野にわたる各種新材料及び新技術について、学界と産業界との両面から有益な情報の修得と、それらの具体的利用事例を勉強して頂くことが可能な研究会です。

また、参加者各位には、異業種の研究幹部・研究開発者の参加者各位間の交流を図ることにより、会員企業における新材料・新技術の方向を探索する機会が開けることを狙いとしております。

過去31回の参加者各位からは、幅広い新材料・新技術情報の取得と利用の可能性を追求することができたという点でご好評を博しています。更には、新材料・新技術を利用して新製品開発に成功された企業、新材料のサンプル提供を受けて新製品開発に着手されている企業、会員企業間で新製品の共同開発に乗り出され、製品化に成功されたケース等も報告されています。

つきましては、現に新製品開発活動を積極的に進められている企業は勿論、これから当該活動に取り組もうとされている企業にとってもお役に立つ研究会であり、特に技術・製品開発の第一線で活躍されている方には、十分な実を挙げて頂けるものと自負いたしておりますので、本研究会にご参加賜りますよう、ここにご案内申し上げます。

《当研究所の概要》

当研究所は、昭和22年、京都大学の一室を借用し創立され、文部省所管の財団法人として活動して参りました。この間、政府関係機関の補助金や企業の寄附金等に頼ることなく、不特定多数の企業から委託される研究・技術指導等の委託料や知的財産権の実施料収入を主たる財源として運営している独立型の研究機関です。

お蔭をもちまして本年度では創立70周年を迎え、設立当初より、京都大学を始め、学術研究機関と緊密な連携を保ち、企業の新製品開発等のお手伝いをするため、3800件余の契約を締結しております。

新材料・新製品の研究開発を通して学界・産業界のお役に立つよう微力ではありますが、産学連携の研究開発機関として学界と産業界の橋渡しを行うと共に、研究成果の育成に貢献して参りました。

開催要領	
参加対象	新材料や新技術の利用に関心をお持ちの企業の経営者、技術・製品開発幹部及び担当者等
開催会場	(一財)生産開発科学研究所 第2会議室 所在地：京都市左京区下鴨森本町15 TEL.075-781-1107(代) *アクセス等については、当研究所ホームページをご覧ください。 <URL> http://www1.odn.ne.jp/seiken
開催期間及び回数	平成28年7月～平成29年3月までの毎月1回 <計9回開催/年間>
開催時間	原則として12時40分より16時10分まで ※開催回毎に時間は多少前後します。

実施要領	
開催方式	講演方式とし、別表の各テーマについて1テーマ毎に学界の先生1名及び産業界の専門家1名を招聘します。尚、毎回、当該開催日の約1ヶ月前に研究会開催案内状を窓口担当者へ連絡し、出欠を確認いたします。
実施内容等	<p>《開催フロー》</p> <p>①毎回、12時40分から5分程度の簡単なオリエンテーションを行います。</p> <p>②まずは、新材料・新技術分野に造詣の深い学界の先生より、当該研究テーマに関する基礎的な技術的知見と解説を、続いて産業界の専門家より、当該研究テーマに関する具体的な利用方法及び用途の可能性について聴講します。</p> <p>③両講師の講演終了後、質疑応答を含むディスカッションにより新材料・新技術の利用方法を探索します。また、希望される会員は講師と名刺交換を行って頂きます。</p>
	*年2回（8月及び3月を予定）、研究会終了後に懇親会を開催し、参加会員相互の親睦を深めて頂きます。
	*懇親会やディスカッション時間等をもって参加会員間の交流を図り、新材料や新技術を利用した新製品開発の方策を探ります。また、会員企業が自社や自社製品等を紹介する場を求められる場合は、別途時間を設けます。
	*原則として、講演資料はパワーポイント(スライド)を講師より入手次第、そのPDFを会員へ提供し、内容を事前に把握して頂く予定です。尚、希望者には開催当日に紙媒体資料をお渡しします。

参加申込要領	
申込方法	添付の会員申込書に必要事項を記入の上、下記事務局へe-mail、FAX、郵送のいずれかの方法によって、お申込ください。(1会員につき1枚の申込書が必要です)
申込締切	平成28年6月17日(金) 必着 <定員になり次第、申込受付を終了いたします>
申込先/事務局	〒606-0805 京都市左京区下鴨森本町15 (一財)生産開発科学研究所 新材料・新技術利用研究会事務局 宛 TEL.075-781-1107(代) FAX.075-791-7659 e-mail : nmt@mint.odn.ne.jp
会費	1会員につき216,000円/年間（消費税を含む） ※会員申込書を受領後、会費請求書を発行の上、窓口担当者へ送付しますので、平成28年8月末日までにお支払くださるようお願いいたします。

*別表の詳細な開催日程については、参加申込者にご連絡いたします。

申込締切：平成28年6月17日(金) 必着

平成28年度(第32回) 新材料・新技術利用研究会 会 員 申 込 書

申 込 日	平成28	年	月	日
企 業 名				
窓 口 担 当 者	所 属 ・ 役 職			
	氏 名			
	e-mail	@		
	住 所	〒	—	
	TEL			
	FAX			
	案内先等確認 (右記空欄どちらか 又は両方に✓)		開催案内状や講演資料は私に連絡されたい	
		開催案内状や講演資料は以下の参加者に連絡されたい		

◎研究会への参加者が上記窓口担当者と異なる場合は、下表にも記入してください（窓口担当者で且つ参加者でもある場合は、下表氏名には「窓口担当者と同様」とし、年齢層にチェックのこと）。

参 加 者	氏 名		所 属 ・ 役 職	
	年 齢 層 (いずれかに✓) ※		e-mail	
	34 歳以下	45～49 歳	@	
	35～39 歳	50～54 歳		
	40～44 歳	55 歳以上		

※参加者の平均年齢層把握のため、チェックのご協力をお願いいたします

*参加者が研究テーマ等により毎回相違されることは差支えありませんが、参加できるのは1会員(企業)につき1名となります。[参加者が毎回異なることが予想される場合にも、上表には代表1名を記載してください(会員申込受付後に他の参加者を確認いたします)。]
尚、テーマによって複数名の参加を希望される際には、会場収容等の都合上、会員申込受付後、事前にご相談ください。この場合、別途、追加1名につき参加費/回を申し受けることとなります。

通信欄：

平成28年度[第32回]新材料・新技術利用研究会
研究テーマ及び講師

平成28年4月25日現在

開催回数・開催順	研究テーマ — 副題 —	講 師 [敬称略]			
		学界側		産業界側	
		氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
1	樹状高分子の新機能 —精密金属集積とサブナノ粒子合成への応用—	山元 公寿	東京工業大学資源化学研究所 無機機能化学部門 教授	阿川 義昭	アドバンス理工株式会社 生産本部 特機生産部 APD事業推進室長
2	傾斜機能材料 —エネルギー変換材料から超硬材料等多彩な展開—	川崎 亮	東北大学大学院工学研究科 材料システム工学専攻 教授	鳩田 正雄	株式会社エヌジェーエス 専務取締役
3	有機材料表面の機能化 —有機材料の低ダメージプロセス—	節原 裕一	大阪大学接合科学研究所 加工システム研究部門 教授	江部 明憲	株式会社イー・エム・ディー 代表取締役
4	ナノ構造制御 —ナノ構造制御と機能開拓—	余語 利信	名古屋大学未来材料システム研究所 材料創製部門 教授	増田 佳丈	国立研究開発法人産業技術総合研究所 無機機能材料研究部門 テラードリキッド集積グループ 主任研究員
5	環動ポリマー	伊藤 耕三	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 物質系専攻 教授	野田 結実樹	アドバンスト・ソフトマテリアルズ 株式会社 代表取締役
6	3D積層造形 —3次元造形による製品の高機能化—	京極 秀樹	近畿大学工学部 ロボティクス学科 教授・次世代基盤技術研究所3D造形技術センター長	小岩井 豊己	株式会社コイワイ 代表取締役
7	多孔性材料 —多孔性材料の現状と将来展望—	北川 進	京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学専攻 機能化学講座 教授	奥村 吉邦	昭和電工株式会社 大分コンビナート 技術開発部長 兼 先端技術開発研究所 触媒研究室長
	＜創立70周年記念企画＞				創立70周年記念企画として「バイオメカトロニクス」を取り上げ、第7回開催時に、組み込みます（本テーマに関しては学界側講師のみ）
	バイオメカトロニクス —生物・規範としたロボットと高出力人工筋肉を用いたメカトロニクスデバイスの開発と応用—	中村 太郎	中央大学理工学部 精密機械工学科 バイオメカトロニクス研究室 教授		
8	有機デバイス —有機エレクトロニクス材料 —高特性材料の設計からその実現まで—	梶 弘典	京都大学化学研究所 分子材料化学研究領域 教授	牛島 洋史	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 フレキシブルエレクトロニクス研究センター 副センター長
9	分子接合 —分子レベルでなんでもつなぐ新しい接合技術—	森 邦夫	岩手大学名誉教授	八甫谷明彦	株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社 システム・ソフトウェア推進センター システム実装技術担当主幹

*今年度初回は平成28年7月に開催し、年間9テーマといたします。

*開催順等は変更する場合があります。